

Get Navi

2013 September - JAPAN



スマホ・タブレット・PC 活用大全2013

Part.04

ヘッドホン/ポータブルヘッドホンアンプ/BTスピーカーで音質は飛躍的に向上

“三種の神器”でいつでも良音を鳴らす

スマホやタブレットで音楽を聴いているけれど、どうせならもっと良い音で楽しみたいと考える人は多いはず。それを手軽に叶えるのがヘッドホン/ポータブルヘッドホンアンプ/BTスピーカーの“三種の神器”だ。ここではこれら三種をテストし、ベストバイを断言する!



BTスピーカー
JBL
JBL CHARGE

ポータブルヘッドホンアンプ
ADL
X1

カナル型ヘッドホン
ソニー
XBA-40

AVライター野村ケンジが認定
コレが最強の音楽リスニング環境

音に広がりのあるBTスピーカー。そして繊密な音を鳴らすヘッドホンには、解像感を高めるヘッドホンアンプを接続。これで端々の音は劇的に向上する。

音が著しく、買い時といえます(野村)

「移動中に楽曲を聴くなら、ヘッドホンは遮音性に優れたカナル型がベスト。スマホ付属のイヤホンより良い音を聴くためには1万円クラスがオススメ。そのヘッドホンの音質を向上させるポータブルヘッドホンアンプに注目。対応端末は機種によって異なりますが、より高品位なサウンドが楽しめます。BTスピーカーは、自宅でも外出先でも良い音が味わえるハイブリッド型内蔵タイプが◎。最近はいずれも音質の向上が著しく、買い時といえます(野村)

ポイントを押えたチョイスでスマホの音は格段に向上する

私が解説します

AVライター 野村ケンジさん
ヘッドホンからシアターまで幅広い音響機器をフォローするAVライター。最近のBTスピーカーの音質向上に目を留めている。

FURUTECH

Review

Get Navi

2013 September - JAPAN



TEST

ポータブルヘッドホンアンプ

AVライター 野村ケンジが考える
3大チェックPOINT



スマホとマッチする
薄型モデルがベスト

音質はもちろん、出先でバッテリーが切れると元も子もないのでスタミナもしっかり確認を。サイズも重要で、スマホと繋げる機器だけに、小さくて薄いモデルがベストです。

ポタアンは、ヘッドホンの実力を最大限に引き出すためのアイテム。そのなかでもより一層の高音質が堪能できるデジタル接続対応のモデルをテストした(※1)。

音質

デジタル接続とアナログ接続の両方で試験を実施。ノイズの少なさや抑揚表現の巧みさなどを確認した。

スタミナ

内蔵バッテリーの充電時間と再生時間をチェック。再生時間が長いほど充電頻度が少なくて済み、便利だ。

携帯性

携帯しやすさを確認。単に小さければいいわけではなく、スマホとセットにした際の持ちやすさも重要だ。

編集部がCHECK!

テストモデル	ソニー PHA-1	ADL X1	iBasso Audio D zero-SE
実売価格	3万2700円	3万7800円	1万3800円
お問い合わせ	0120-777-886	03-5437-0281	03-5783-3880
特徴	iOS端末とのデジタル接続に対応。剛性の高いアルミケースを採用し、音質劣化の原因となる外部ノイズを低減することが可能だ。	iOS端末とのデジタル接続が可能なモデル。USB DAC機能も備え、192kHz/24bitまでのハイレゾ音源の再生が行える。	カードサイズの小型モデルで、Android端末とのデジタル接続に対応。ヘアライン処理を施した上質なデザインも特徴的だ。
音質	<p>ノイズの少なさ ○</p> <p>抑揚表現 ○</p> <p>解像感 ○</p> <p>音声信号を歪みなくそのまま増幅しているかのような、クリアでストレートなサウンドが好印象。低音とボーカルの表現力も上々だ。</p>	<p>ノイズの少なさ ○</p> <p>抑揚表現 ○</p> <p>解像感 ○</p> <p>表現力が高く、いきいきとした演奏やボーカルが楽しめた。解像感も豊かで、ヘッドホンの音をダイナミックかつリアルにしてくれる。</p>	<p>ノイズの少なさ ○</p> <p>抑揚表現 ○</p> <p>解像感 ○</p> <p>幅55mmと非常にコンパクトだが音は本格的。音楽をより楽しくさせてくれる音作りで、メリハリのある生き生きとしたサウンドを堪能できた。</p>
スタミナ	<p>充電時間 約4.5時間</p> <p>持続時間(※2) 約10時間</p> <p>本体サイズが大きいこともあり、内蔵バッテリーは大容量。約4.5時間の充電で、アナログ接続で約10時間、デジタル接続で約5時間の再生が行えるのは魅力。</p>	<p>充電時間 約7時間</p> <p>持続時間(※2) 約7~7.5時間</p> <p>デジタル/アナログ再生ともにバッテリーは最大で約7.5時間持続。ほかの2モデルと比較すると少々心許ないが、厚さ16.5mmの薄型ボディを考えると合格レベルだ。</p>	<p>充電時間 約3時間</p> <p>持続時間(※2) 約25時間</p> <p>約3時間充電すれば、約25時間と長時間のアナログ再生が行える豊富なスタミナが自慢。デジタル接続時の数値は未公表だが、こちらも他製品より長時間再生できた。</p>
携帯性	<p>サイズ: 約W67×H26×D130mm</p> <p>質量: 約220g</p> <p>サイズは、ポタアンとしては一般的だがテスト機のなかでは最も大きく、スマホと組み合わせると扱いづらい。しかし、比較的細身なので製品自体の携帯性は悪くない。</p>	<p>サイズ: W68×H16.5×D118mm</p> <p>質量: 約147g</p> <p>決してコンパクトとはいえないが、スマホと接続して重ねて携帯することを考えると丁度良いサイズ感。本体の表面がすべすべしている、スマホを傷付けにくいのも○。</p>	<p>サイズ: W55×H11×D79mm</p> <p>質量: 60g</p> <p>サイズは一般的な名刺よりも小さく、3機種中最もコンパクト。薄さは11mmで、スマホと一緒に胸ポケットに入れてもかさばることなく、快適に持ち運べた。</p>
総評	<p>音質の良さだけでなくデザインも魅力</p> <p>デジタル接続に加えアナログ接続も高音質。オーディオ機器らしい、いい意味で骨格なデザインも含め、ツウ受けるモデルといえるだろう。</p>	<p>トータルの性能に秀でた好バランスモデル</p> <p>スマホと絶妙にマッチするコンパクトサイズで、表現力の高いサウンドと十分なスタミナを両立。総合力が極めて高い、隙の無いモデルと言える。</p>	<p>リスニングを楽しむハイコストバ機</p> <p>他機種種の半分以下の価格ながら、サウンドには躍動感があり、音楽鑑賞を楽しくさせてくれる。携帯性も優秀。コストはナンバーワンだ。</p>